

2020 年 11 月 03 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【本日は、米国大統領選挙の投票日】

本日（11 月 3 日）は、米国大統領選挙の投票日です。

その一方で、日本は、「文化の日」で祝日、マーケットは休場です。

本日（11 月 3 日）は、アジア市場、欧州市場と、米国大統領選挙を控えて、大きな値動きにはなり難いのだろう、と考えます。

しかし、今回の大統領選挙では、事前予想の不確実性が高い状況です。

トランプ現大統領と、バイデン候補の支持率では、バイデン候補の優勢が伝えられてきましたが、投票日が迫るにつれて、トランプ現大統領の追い上げが著しく、直前の予想では、ほとんど五分五分に近い情勢のようです。

なおかつ、トランプ大統領が、郵便投票に関して、法廷闘争に持ち込むのではないかと、いった疑念も出ており、大統領選挙が終わっても、決着が付かずに、混乱する可能性も否定できない様子です。

米国大統領選挙の結果が確定するまでに、時間がかかる場合は、マーケットが荒れる可能性もあり得ます。

トランプ大統領が勝利する場合は、現状の政策が続くのですが、バイデン候補が新たな大統領となる場合は、米国の政策に、大きな変化が出るのだろう、と考えます。

バイデン候補は、CO₂問題では、「パリ協定」に復帰するとしており、環境関連のインフラの整備に、2 兆ドル（約 210 兆円）を投じる、と発表しています。

バイデン候補が勝利する場合は、石油関連の企業や、鉄鋼関連企業、自動車関連企業は、環境問題に対応するために、様々な工夫を強いられることになるでしょう。

しかしながら、個人的には、地球環境を良い方向に持っていくのならば、経済的には少しマイナスでも、むしろ、それが望ましいことだ、と考えます。

米国と中国との関係は、トランプ大統領が勝利しても、バイデン候補が勝利しても、基本的には、大きな差はないのだろう、と考えています。

トランプ大統領が、中国に対して、強硬姿勢を貫いてきた印象が強いので、バイデン候補が新大統領になると、融和するようにも見えますが、実際のところ、米中の対立は、避けられない問題であり、バイデン候補の政策でも、根本的な違いは無いのだろう、と考えます。

米国という超大国のリーダーとしては、その本音の部分で、自国を第一に優先することは当然としても、全世界のモラルに耐えうる政策を採択して欲しい、と考えます。

米国の選挙ですから、米国民の選択に託するしかないのですが、米国民が良識ある選択をしてくれるように、祈念しています。

+++++

(2020 年 11 月 03 日東京時間 11 : 40 記述)